

成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

野火止演劇クラブ

所在地	埼玉県新座市	設立年	1954年
運営主体	有限会社 東京演劇アンサンブル(埼玉県新座市)		
事業目標	子どもたちが地域において文化・芸術に触れる機会を持てるように、新座市内の事務所のある劇団が中心となって、地域に根差した定期的な活動を行います。		
きっかけ	新座市内の小中学生を対象とした演劇クラブを立ち上げます。文化活動の盛んでない新座市に、演劇文化の新たな拠点をづくり、町おこしに貢献します。		
団体・組織等の連携	新座市民会館との提携企画ができる様なパートナーシップを作る 学校には、チラシの配布などの協力を求める 保護者を中心とした地域サポーターを増やす		
活動場所	野火止RAUM ふるさと新座館 新座市民会館		
活動概要	年間30日、80時間を超える活動の補償 5～24名の地域参加者		

○本事業による成果

初年度のため、まずは地域に根差し、地域の方が知ってもらう活動の見え方を考えました。野火止RAUMでの公演は、コロナ禍のため客席数を限定し手になりましたが、64席×2回公演、すべて満席となりました。参加した小・中学生は、次年度の参加も希望しており、年々参加者が増えることを期待しています。新座市内では、演劇部のある学校がほとんどなく、そのよりどころとして期待が膨らんでいます。

○児童・生徒への指導に関する工夫

初期のころは、作品創作ではなく、コミュニケーションワークショップを中心に実施しました。作品創造は、プロセスが重要であり、そのプロセスにおいては、豊かで、他者を意識できる人間関係が不可欠です。その時期を経ての作品創作は、意見交換ができ、他者の話を聞き、違いを認めることで、その思いが、自分自身を変化していくことにめたがります。そのため、コミュニケーションワークショップを中心とした活動を実施しました。専門的な知識のある音楽家、舞踏家などの指導を活動内に加えることで、質的向上を図ることができた。

○運営上の工夫

指導者は、長年劇団で経験を積んだメンバーを中心に活動しています。地域に根差した活動とするため、小・中学生ではあるが、30代くらいまでを参加者対象とし、異年齢での作品創りを意識しました。普段学校生活では会えない地域の大人との活動は、参加する小・中学生にとっては貴重な経験となります。公演に際しては、チラシ配布、集客、衣裳製作など、保護者の協力を経て、できるだけ幅広く地域に周知できるように工夫しました。若い指導者の人材育成としては、協力機関としての日本児童・青少年演劇劇団協同組合の人材育成事業などを活用しています。

○継続的な運営に関する課題・展望

劇団の稽古場である野火止RAUMを活用することで、柔軟な活動ができました。

ただし、劇団の活動時には使用できないこともあり、その際に地域の公民館や、新座市民会館を使用することでカバーすることができました。

参加者への周知や、公演の宣伝など、新座市民会館との連携を深めながら、新座市内の教育機関との関係を築いていきたい。令和3年度は、コロナ禍のため、新たに出会うということが困難であったため、今後の課題です。質の高い指導を保証するためには現在の補助金は不可欠で、3年でなくなるとしたらそれが大きな課題です。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

新座市内の小中学校には演劇部がほとんどない(主催者リサーチでは1校のみ)ため、新たな演劇クラブとして活動を開始しました。関心のある層が自分の学校の部活動にはない活動が、地域クラブに入ることによって、解消できるよう奈道筋を作りたいと思います。

教育機関との連携は不可欠で、令和4年度の活動の中で、連携・協力を深めていきたいと思います。

参加費負担の高額化が解決方法が難しい。

参加者 (予定人数)	小学4年生～中学3年生 5名／一般参加 5名 (10～24名が理想)
募集方法	チラシ配布 SNSなどを利用しての周知
指導者	ウンエイ団体より8名 協力団体関係者より2名
移動手段	徒歩または自転車 一部保護者による送迎
活動費用	年間参加費1万円 公演参加費1万円
スケジュール	4月募集、5～12月活動 12月活動成果の発表として公演を実施
保険加入等	行事参加者の傷害保険 10名

【活動の様子（写真添付）】

